

2025 年度 台湾研修 報告書

医療科学部 放射線技術学科 2回生 氏名 河合花佳

台湾研修概要

本研修は8月31日から9月6日までの7日間、元培大学（写真①）や新竹國泰醫院（写真⑦）、九份（写真⑥）、臺北101、臺北台安醫院、中正記念堂（写真⑨）で実施された。大学内では、実生活に役立つ中国語や人体の部位に関する中国語を学んだり、大学の歴史館（写真②）を見学した。学外では、病院見学を通して各病院の特色や日本の病院との違いを学ぶことができた。また、九份や臺北101での観光を通して、台湾の文化に触れることができた。

本研修に参加した目的と目標

本研修に参加した目的は2つある。第一に、国際交流を通して視野を広げることである。私は、物事を一方から見てしまい、視野が狭くなりがちである。そのため、台湾の学生との交流を通して異なる文化や価値観に触れることで、柔軟な考え方を身につける良い機会になると感じた。第二に、自分のコミュニケーション力を高めることである。私は英語に対し苦手意識があり、うまくコミュニケーションをとることができるか不安はあったが、言語の壁を乗り越え積極的に交流する経験を積むことで、将来、患者さんや多様な人々に対応できる力を養えると考えた。

本研修での目標は、積極的に交流し、柔軟な対応力を身につけることである。苦手意識を克服するとともに、将来、幅広い視野を持って対応することが必要だと考えたからである。

学内研修で学んだこと

学内研修では、学生交流や中国語講座（写真③）、ポスター制作を通して多くのことを学んだ。学生交流では、初日に、大学紹介や日本文化についてプレゼンテーションを行う機会があり、その準備を通じて、計画的に取り組む姿勢や自ら積極的に行動する大切さ、そして協力することの重要性を学んだ。また、スライドの内容をどのようにすれば分かりやすく、かつ楽しんでもらえるかを工夫する中で、相手の立場に立って考える視点を養うことができた。さらに中国語講座では、日常生活に役立つ表現や人体の部位に関する単語を学んだ。日常表現は、実際にタピオカやお土産を購入する際に活用でき、学んだことをすぐに実践することで、自信や達成感につながった。人体に関する中国語は、将来、診療放射線技師として中国語を話す患者さんに説明する際など、国際的な場面で役立つ知識になると感じた。ポスター制作の課題では、限られた時間の中で作成する必要があり、短時間で効率よく作業を進めるためには、作業を分担し、お互いに意見を出し合って協力することが重要だと思った。また、時間が足りないという焦りから作業中にネガティブな言葉が多く出ていたが、「どうせなら楽しみながら進めたい」と思い、前向きな声掛けを意識した。これにより、チームの雰囲気も良くなり、効率も向上したと感じた。以上の経験から、何事にも楽しみながら取り組むことが大切であると考えた。

学外研修で学んだこと

台湾の病院見学では、日本とは異なる工夫がなされていることを知った。まず、日本よりもデジタル化が進んでおり、予約・受付・決済などにアプリを活用して効率的に運営していた。また、モニターに患者情報を表示する際には、名前的一部分を隠すなど、個人情報保護にも配慮されていた。

日本でも救急と外来は分けられているが、台湾ではさらに救急医療の中で外科・内科・放射線科・薬剤部などがそれぞれ独立しており、各部門が隣接して配置されていた。その他にも、食事や運動面への配慮が行き届いていた。健康管理のために野菜中心のベジタリアン食が提供され、主食であるパンも一流のシェフによっておいしく食べられるよう様々な工夫がなされていた。また、患者さんの運動習慣やリハビリを兼ねて院内にジムが設置され、専属のトレーナーも配置されていた。このジムは患者さんだけでなく、医療従事者や地域の住民も利用することができるようになっており、健康を支える取り組みが充実していた。

これらのことから、台湾の医療は技術面だけでなく、患者さんことを第一に考えた食事や運動への配慮、そして地域全体の健康を支える体制づくりに力を入れていることが分かった。こうした取り組みが QOL(生活の質)の向上につながっていると感じた。日本でも、自動会計システムや自動受付システムをさらに導入していくことで、より効率的な医療体制の実現につながるのではないかと考える。

観光&交流

観光では、九份や臺北 101 をはじめとする多くの観光地を訪れ、台湾の文化に直接触れることができた。日本では見られない景色や、魯肉飯・臭豆腐・豆花（写真⑤）など、これまでに食べたことのない料理を堪能する貴重な機会となった。

また、台湾の学生ボランティアの方々がとても親切に「どこ行きたい？」「何をしたい？」と尋ねながら案内してくれたり、フレンドリーに話しかけてくださったりしたこと、とても楽しく交流することができた。そのおかげで自分からも話しかけやすくなり、好きな日本の歌手やアニメ、共通の趣味の話で盛り上がることができた。

異なる言語であっても、勇気を出して自分から話しかけることで思わぬ共通点が見つかり、新たな発見やより深い交流につながることを学んだ。これらの経験は、旅行だけでなく、将来診療放射線技師として患者さんとコミュニケーションをとる際にも活かせると考えた。言語や文化が異なる相手に対しても、自分から積極的に話しかけ、共通の話題を見つけることで信頼関係を築き、患者さんに安心感を与えることにつながると考える。また、新しいことに挑戦する姿勢や柔軟な対応力も今後の学びや仕事に活かしていきたい。

まとめ

本研修を通して、自分から積極的に行動することや、計画的に取り組むことの大切さに気づいた。最初は、初対面の人と距離を縮めることが苦手であり、また、言語や文化の違いからうまく会話できるかについて大きな不安があった。しかし学内交流や中国語講座で交流の機会を設けていただいたり、自ら積極的に話しかける場面があったりしたことで、次第にコミュニケーションを取れるようになっていった。その結果、研修を終えた今、非常に実り多い経験になったと感じている。不安を乗り越えるためには、勇気を出して行動し、計画的に準備を進めることが大切であると学んだ。また、言語が異なっても、伝えようとする気持ちやジェスチャーなど、使える手段を駆使して積極的に関わろうとする姿勢があれば、コミュニケーションを取るや相手との距離を縮めることにつながるのだと実感した。

本研修で得た学びを、今後の生活や実習、そして将来の仕事に活かしていきたい。

謝辞

本研修に参加するにあたり、さまざまな面でご尽力いただいた島津製作所の皆様に心より感謝申し上げます。研修計画の立案や壮行会の開催などでお世話になった京都医療科学大学の先生方および事務職員の方々、さらに引率としてご同行いただいた先生方にも厚く御礼申し上げます。また、中国語講座や MRI、超音波検査に

についてご指導くださった元培大学の先生方、現地で温かく迎え入れ、観光地を案内してくださった学生ボランティアの皆さんには、異文化交流をより深いものにしていただき、感謝いたします。加えて、病院見学において丁寧にご説明くださった新竹國泰醫院、臺北台安醫院の医療従事者の皆様にも、厚く御礼申し上げます。1週間にわたる実り多い研修を無事に終えることができたのは、皆様のご支援とご協力の賜物です。

最後に、この貴重な機会に参加させてくれた家族、そしてともに励まし合い支え合った仲間にも、心から感謝いたします。

写真（注釈も入れる。文中に対応する写真について記載する）



① 元培大学



② 歴史資料館



③中国語講座



④元培大学でMRIについて学ぶ様子



⑤豆花



⑥九份



⑦新竹國泰醫院



⑧元培大学で超音波検査について学ぶ様子



⑨臺北台安醫院

⑩饒河夜市

